

日本版ISAの道 その93

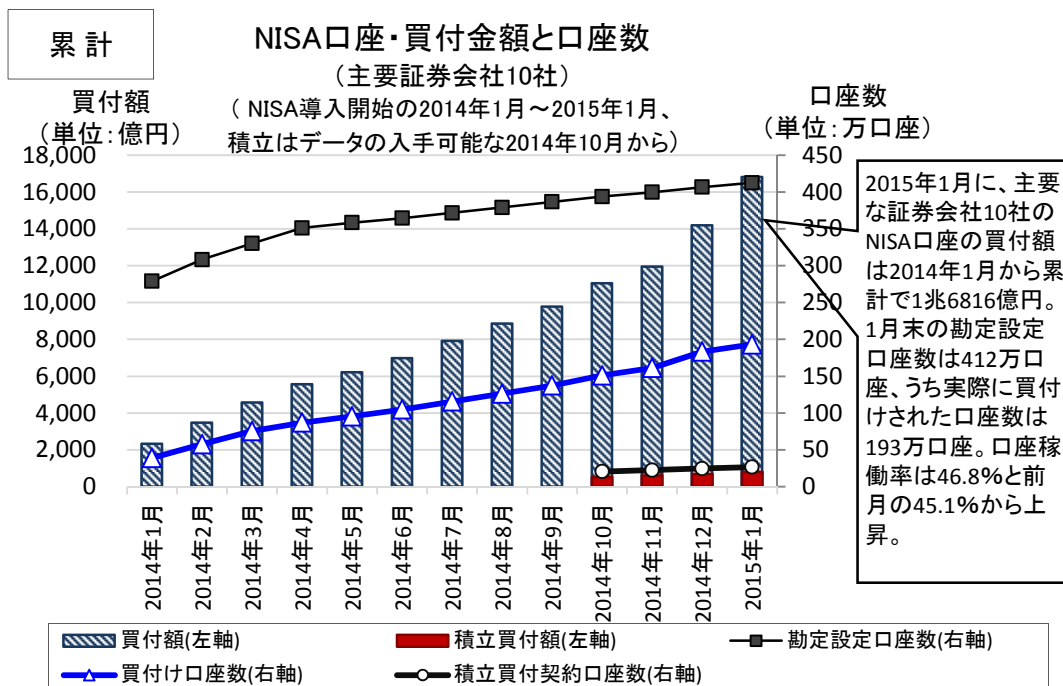
NISA口座、半数が休眠—投資初心者「何買えば…」?
2月の売れ筋はやはりREITファンドで、それ以外はグローバル債、アセットアロケーション柔軟型、日本株のファンド!!

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

NISA 口座の開設件数、買付金額、平均買付額、稼働率、積立の最新値を確認

2015年3月3日(火)付日本経済新聞朝刊に「NISA 口座、半数が休眠—投資初心者『何買えば…』、営業競争、顧客意識とズレ(真相深層)」という見出しの記事があった。そこに「NISAは、初年度に目標を大きく上回る約800万件の専用口座が開設された。しかし、次第に問題点も明らかになる。実際に投資に使われない休眠状態の口座が半数に上っていた。」とあった(下線は投信調査室)。

「約800万件の専用口座」とは、国税庁の発表値を金融庁が公表した2014年末時点のNISA口座開設件数約833万件の事と思われる(そのURLは後述[参考ホームページ]及び2015年2月16日付日本版ISAの道 その90参照)。「休眠状態の口座が半数に上っていた」とは、日本証券業協会の公表した2015年1月末にかけての主要な証券会社10社のNISA口座利用状況の中の数字と思われる。そのNISA口座利用状況によると、NISA口座数が、最新2015年1月末に約412万口座で(*833万件の半分近くが主要な証券会社10社分)、うち、買付けのあった口座が193万口座あり、「買付のあった口座÷勘定設定口座数」で稼働率46.8%となり、休眠状態のNISA口座は53.2%で半数に上っていたとなる(後述※1参照)。前月2014年12月末も見ると、NISA口座数が約406万口座で、買付のあった口座が183万口座、稼働率45.1%なので、2015年1月に、幾らか上昇していた事となる。



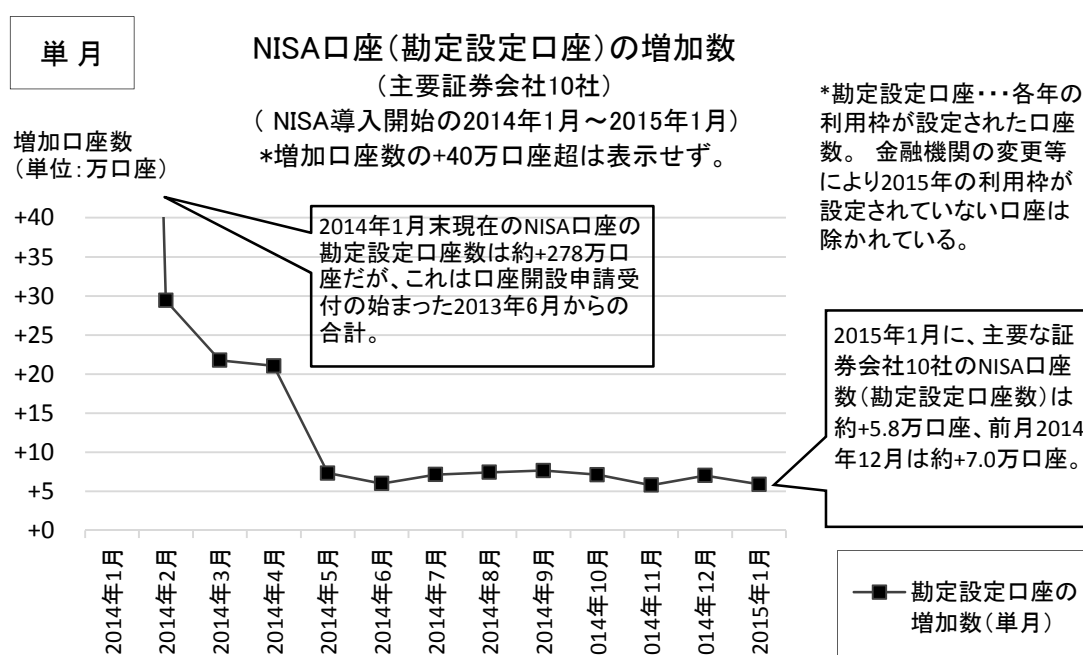
(出所: 日本証券業協会より国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

ちなみに主要証券会社10社とは大手証券会社5社とインターネット専門証券会社5社で構成され、そのNISA口座数は、銀行等も含めた全金融機関で開設された口座数の約半数(2014年末に49%)を占めている。

※1: NISA 口座の数(総口座数と勘定設定口座数)・・・証券会社や銀行等も含めた全金融機関における NISA 総口座数だが、口座開設申請の始まった 2013 年 10 月の初めに申請数で約 358 万件、口座開設の始まった 2014 年初めに約 475 万件、2014 年 3 月末に約 650 万件、6 月末に約 727 万件、そして、12 月末に約 833 万件。このうち主要証券会社 10 社については日本証券業協会が公表しており、2014 年 12 月末に約 406 万口座、2015 年 1 月末に 414 万口座。一方、各年の利用枠が設定された口座数である勘定設定口座数は、主要証券会社 10 社について 2014 年 1 月に約 278 万口座、3 月末に約 330 万件、6 月末に約 364 万件、12 月末に約 406 万口座、2015 年 1 月末に 412 万口座となっている。2015 年 1 月末の NISA 総口座 414 万口座に比べ、勘定設定口座の数が 2 万口座程度少ないが、これは「金融機関変更等により 27 年の利用枠が設定されていない口座を除外していることが要因」(日本証券業協会公表資料より)とのことである(URL は後述[参考ホームページ]参照)。

先の日経で「休眠状態の口座が半数に上っていた」事については、NISA 口座は申し込みから開設まで 1~2 カ月かかる事もあり、「1 年目は手続きに時間がかかったが、2 年目はスムーズに行っており、稼働率は上がってくるのではないかと」(2015 年 3 月 5 日付毎日新聞)とされている。さらに 2016 年からはマイナンバー開始により、NISA 口座の申請時に住民票の代わりにマイナンバーを利用して開設時間が短縮されることから、今後の稼働率アップが期待される。「マイナンバーを使うことで口座開設までにかかる期間は 1~2 週間程度になる見通しだ。今の制度では口座を開設するのに住民票を取得して金融機関に提出しなければならない。利用者の負担を減らすために銀行などは住民票取得の代行サービスもしているが、申し込みから口座開設まで 1 カ月半から 2 カ月かかる。」(2015 年 2 月 27 日付日本経済新聞朝刊~URL は後述[参考ホームページ]参照)。

前頁グラフでは、NISA 口座数(設定勘定口座数)も買付された口座数も右上がりに伸びているが、次に、月ごとの口座開設状況を見る。NISA 口座数の前月比を、各月に開設された口座数とみなしてグラフにしたものが下記である。最新 2015 年 1 月の NISA 口座の増加数は+5.8 万口座、前月 2014 年 12 月は+7.0 万口座となっている。2014 年 1 月は大きく突き抜けているが(+278 万口座)、これは NISA 口座開設受付の始まった前年 2013 年 6 月から 9 カ月分が含まれているからである。

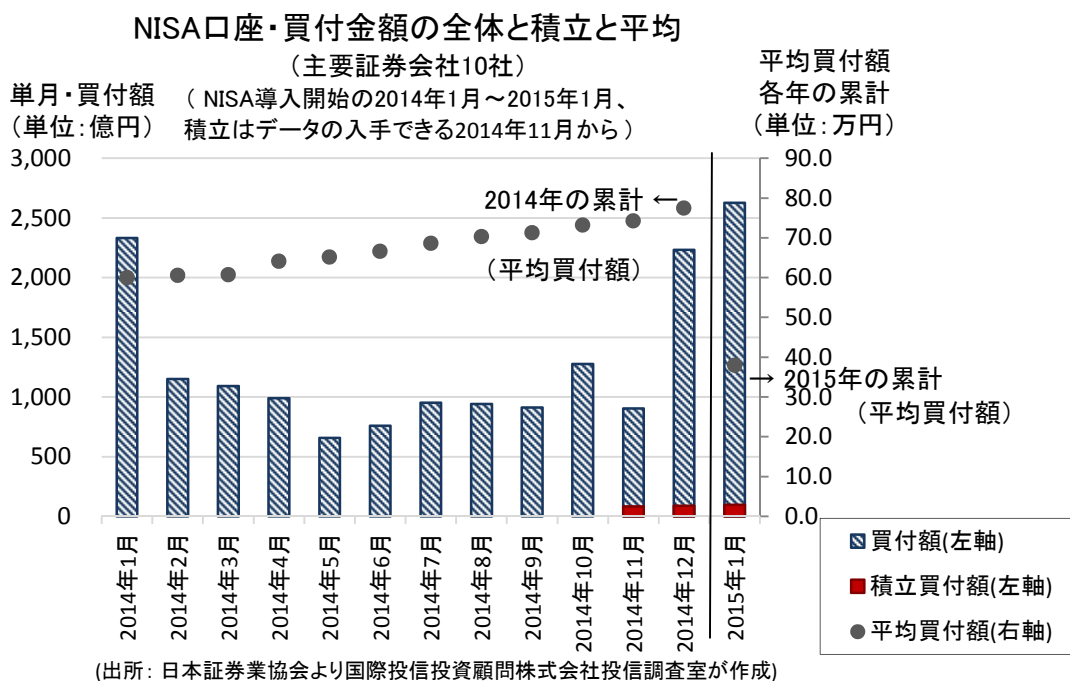


(出所: 日本証券業協会より国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

前述した様に、主要証券会社 10 社の口座数は金融機関全体の口座数の約半分程度であるため、NISA 口座全体では、足元で毎月 12~14 万口座程度(=5.8×2、7.0×2)が開設されていると推計される。

主要な証券会社 10 社の NISA 口座全体の買付額は、2014 年 1 月から 2015 年 1 月の累計で、1 兆 6816 億円となっている(前々頁グラフ参照)。累計ベースではなく、月間の買付額をみたものが下記グラフで、2015 年 1 月は 2627 億円と、前月 2014 年 12 月の 2234 億円を上回り、NISA 開始の 2014 年 1 月以来で最大の流入となった(単月ベース)。月間の積立買付額は 2015 年 1 月に 96 億円で、全体の買付額に占める比率は 3.7%となっている。

また、主要な証券会社 10 社の NISA 口座の平均買付額(=買付額÷買付された口座数)は 2014 年末に累計で 77.4 万円、2015 年 1 月は 37.9 万円だった。2015 年 1 月が急減している様にも見えるが、2014 年 12 月までは 2014 年 1 月から始まる累計による平均買付額で、2015 年 1 月は 2015 年 1 月から始まる累計による平均買付額である事も要因である。ただ、平均買付額が低いのは(下がるのは)新規投資家に多いと思われる少額投資が増えている事の裏返しとも言えるので、決して良くない事ではないと思われる(2015 年 2 月 16 日付日本版 ISA の道 その 90 を参照～後述 URL[参考ホームページ])。

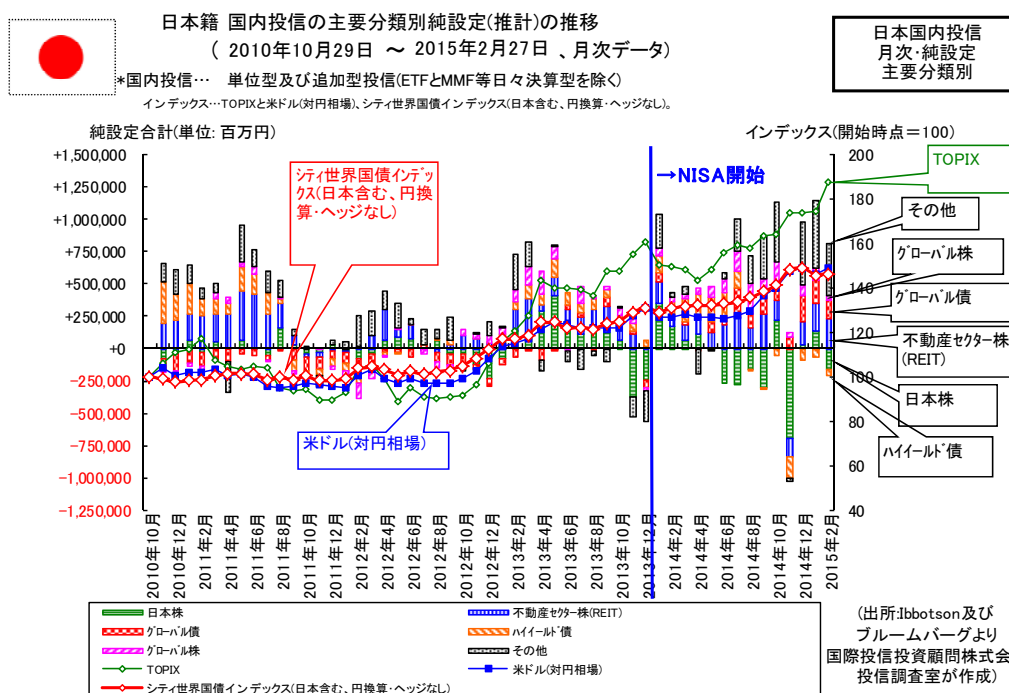
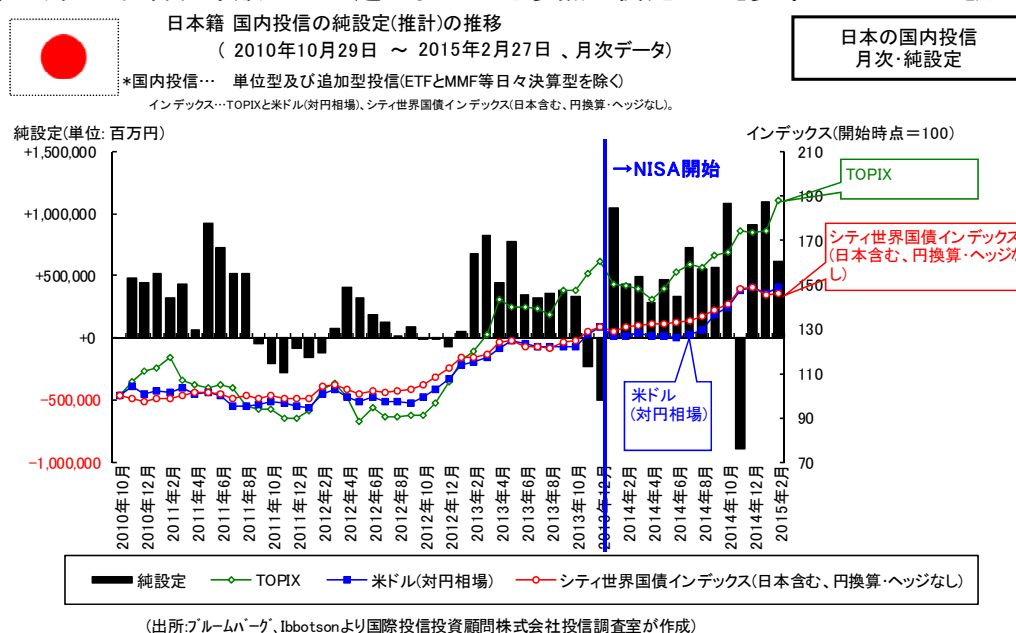


既存投資家の REIT・グローバル債ファンド人気が続

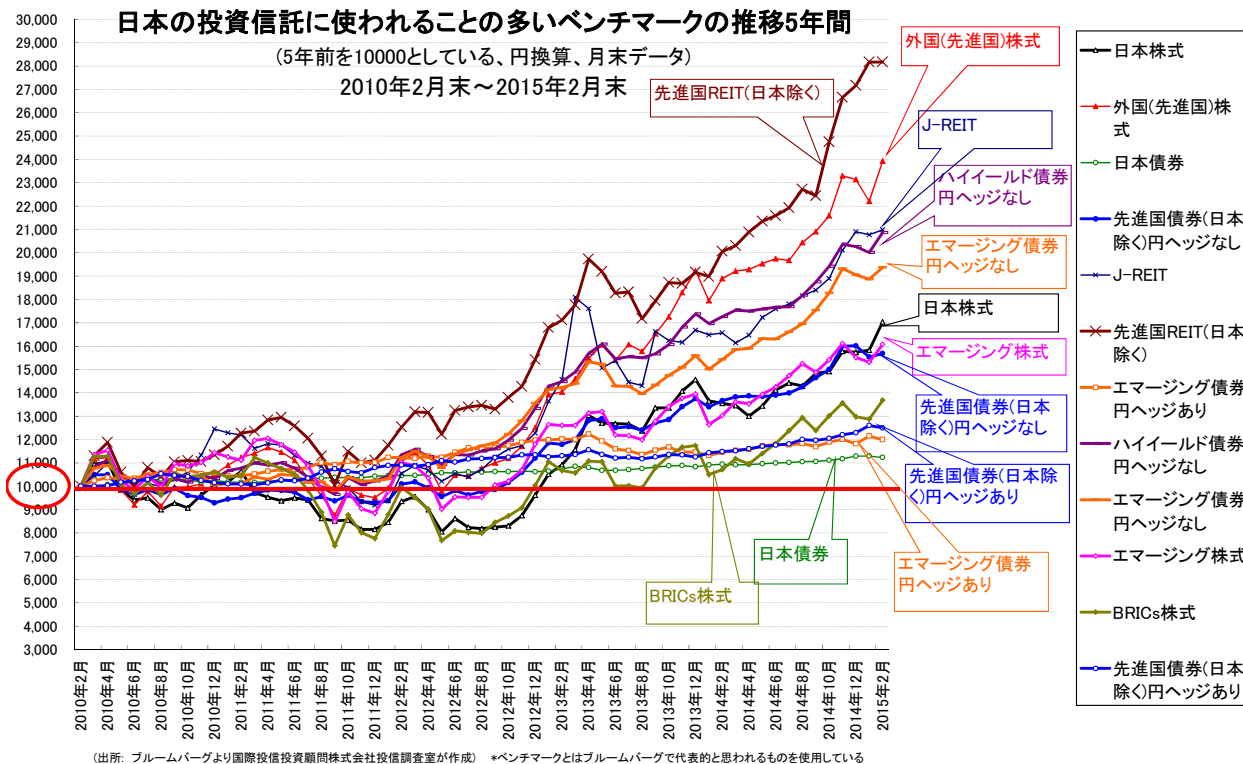
NISA が 2 年にもなり、手続きもスムーズに行われ、平均買付額低下など新規投資家が増えている兆しもあり、2015 年以降での開設増や稼働率上昇が期待されるが、引き続き残るのが、冒頭で引用した 2015 年 3 月 3 日(火)付日本経済新聞朝刊の通り、「投資初心者『何買えば…』』と言う課題である。「金融商品の選択肢があまりに多い。…(略)…『情報が多すぎる』。結局、『何を買えばいいのか分からない』」(2015 年 3 月 3 日付 日本経済新聞朝刊)である。2 年目 NISA で、何を買うか。ここで恒例の最新月の NISA 投資(投信分)を見る。投信を見るのは「現状での口座稼働率停滞も指摘される NISA だが、今後の巻き返しに向けても「主戦場」となるのは、やはり投資信託。引き続き投信の動向からは目が離せない。」(2015 年 3 月 5 日付日本証券新聞)である。人気のある投信を買う事となるが、家電・パソコンや自動車・不動産などでもよく見られている「売れ筋ランキング」で買う事にも近く、参考になり、安心感もある。実際、後述する通り、ネット証券では NISA の「売れ筋ランキング」を出している。

従来通り、NISA のファンド動向を見るにあたって、投資家を、既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分ける。前者の既存投資家は NISA で実際に投資をしている投資家の大半を占めているとされるが、それを投信全体の動向で代替し、後者の新規投資家は NISA 向けファンド(後述※2 参照)で代替する事とする。

まず前者の既存投資家であるが、投信全体の純設定(推計)を見ると、最新 2015 年 2 月は+6156 億円と、前月 1 月を下回るものの 3 カ月連続の資金純流入だった。この既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。最新 2 月は不動産セクター株(REIT)が最も大きな純流入で、次いでグローバル債、米国大型株ブレンド株、日本債などに資金が集まっている(*主要分類…モーニングスター分類を用いて 2014 年 12 月末の純資産の大きい上位 5 分類。米国大型ブレンド株、日本債はグラフでは「その他」に含まれる)。2014 年に引き続き 2015 年も、不動産セクター株(REIT)の大きな純流入と、次いでグローバル債の人気の傾向は継続している(2014 年については 2015 年 1 月 13 日付日本版 ISA の道 その 86 を参照～後述 URL[参考ホームページ])。

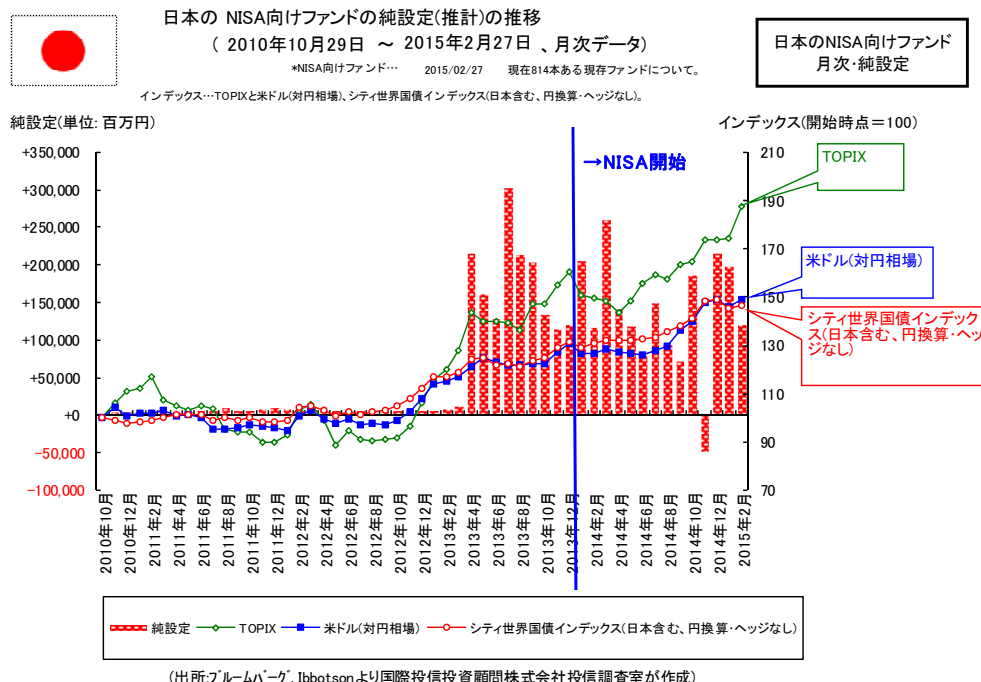


2015年2月に不動産セクター株(REIT)が最も大きな純流入で、次いでグローバル債、米国大型株ブレンド株などに資金が集まった背景だが、パフォーマンスの好きによるところが大きいと思われる。投信に使われることの多いベンチマークを見たのが下記グラフである。パフォーマンスの好い順に、先進国REIT、先進国株式、J-REIT、ハイールド債券、エマージング債券、国内株式などとなっている(*5年前を10000としている、円換算、月末データ)。

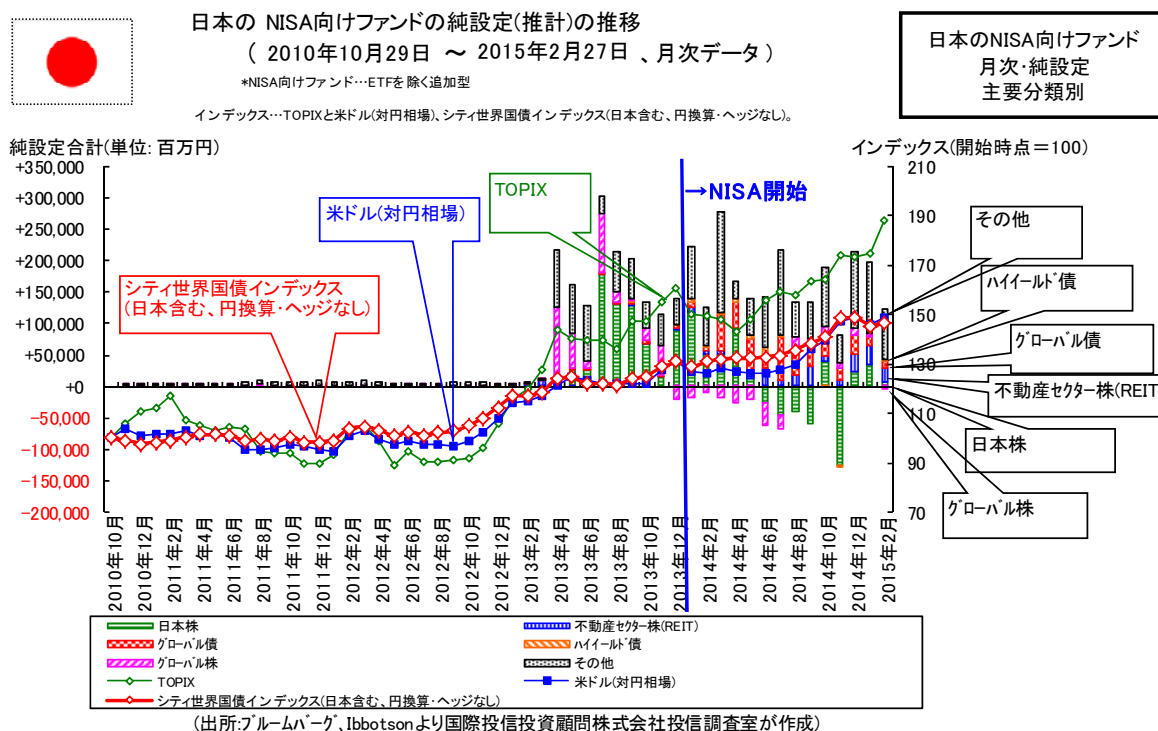


新規投資家の REIT・グローバル債・アセットアロケーション柔軟型ファンド人気も継続

次に新規投資家であるが、NISA 向けファンド(後述※2 参照)の純設定を見ると、最新 2015 年 2 月に+1196 億円と、前月 1 月(+1966 億円)を下回るものの、3 カ月連続の資金純流入。



この新規投資家と思われる投信の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いる。純流入1位は不動産セクター株(REIT)(前月1月は3位)、2位はアセットアロケーション柔軟型(同4位)、3位はグローバル債(同5位)、4位はその他オルタナティブ(同10位)、5位はアセットアロケーション積極型(同6位)となっている。不動産セクター株(REIT)とグローバル債は既存投資家(投信全体)及び新規投資家の両方で、2014年に引き続き人気のように、アセットアロケーション柔軟型は、2014年に安定的な資金純流入となった新規投資家において、NISA2年目の2015年も人気が続いているようだ(アセットアロケーション柔軟型/積極型やその他オルタナティブは、下記グラフで「その他」に含まれる)。一方、グローバル株は新規投資家で7カ月ぶりに純流出となったが、これは前述したパフォーマンスの好きを背景として2月は利益確定の売りがあったように思われる。



※2「NISA向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。なお、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・限定追加型・年1～2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1～2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1～2回以外を除いている(*マネー・プールは年1～2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2015年2月27日時点で814本となった。

ネット証券会社における実際の人気は REIT ファンド、次いで日本株ファンド

ここで、金融機関各社が発表する実際の投資動向もあわせて見る。2015年3月3日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新 NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているところは、ネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を参考まで紹介して、NISA 口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る。個別ファンドなどの詳細は後述 URL[参考ホームページ]ご参照。

○マネックス証券では2015年2月のNISA 口座における売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1~4位は不動産セクター(REIT)ファンド、5位日本株ファンドとなっている。前月2015年1月も同じだった。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週2015年2月23日から2月27日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・2・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位は日本株ファンド、5位グローバル株ファンドとなっている。約1カ月前の2015年1月26日から1月30日までの1・3・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位は日本株ファンド、5位米国株ファンドだった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、2015年2月23日から2月27日までのNISA投資信託・買付金額の1・2・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、3・5位は日本株ファンドとなっている。約1カ月前の2015年1月26日から1月30日までは1・2・4・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位は日本株ファンドだった。

ネット証券の投資動向は、REIT ファンド、次いで日本株ファンドに人気が集まっている。

2015年2月は、既存投資家と新規投資家の両方で見られたように、さらにネット証券会社における実際の売れ筋投信から見ても、2014年の流れを引き継ぎ、REIT ファンドの人気が継続。日本株ファンドの人気も見られるが、既存投資家で見られる利益確定の売りもあるようだ。次いで、グローバル債ファンドや米国株、アロケーション型への人気も見られた。以上、NISAにおける投資信託の最新動向だった。引き続きデータや報道、各社ホームページ等をしっかり見て動向を判断していきたい。

[参考ホームページ]

2015年3月3日付 日本経済新聞 朝刊「NISA口座、半数が休眠—投資初心者『何買えば…』、営業競争、顧客意識とズレ(真相深層)」…「<http://www.nikkei.com/article/DGKKZO83877000T00C15A3EA1000/>」、

2015年2月16日付日本版ISAの道 その90「最新のNISA 口座開設件数は約833万件で稼働率は45.1%! 2年目となったNISAで何に投資する? 2年目最初の月である1月は、REITと日本株に加え、既存でグローバル債・株、新規で米株・アセットアロケーション柔軟型が人気!!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150216.pdf>」、

金融庁のtwitter公式アカウント(国税庁発表の2013年10月1日時点のNISA口座の開設申請数および2014年12月末NISA口座開設件数)…「https://twitter.com/fsa_japan/status/393679622727938048」、
https://twitter.com/fsa_JAPAN/status/560731723172823041」、

金融庁の2014年6月末現在NISA口座の開設・利用状況等調査「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20140912-1/01.pdf>」、

日本証券業協会の主要証券会社10社のNISA口座利用状況…

「<http://www.jsda.or.jp/katsudou/kaiken/files/150218shiryousai-4.pdf>」、

2015年3月5日付毎日新聞「少額投資:関心高まる「1000円から」に若年層も安心感」…

「 <http://mainichi.jp/feature/news/20150305mog00m020009000c.html> 」、
2015年3月5日付日本証券新聞「投信買い、復活への道 ラップ向け設定が主体」…
「 <http://kabu.nsjournal.jp/gaikyo/26146.html> 」、
2015年2月27日付日本経済新聞朝刊「子どもNISA、来年4月から マイナンバーで開設 OK」…
「 http://www.nikkei.com/article/DGKKASFS26H1A_W5A220C1MM8000/ 」、
2015年1月13日付日本版ISAの道 その86「税制改正大綱にジュニアNISA 創設とNISA120万円への引き上げ
1月から年単位で金融機関の変更が可となり、NISA 拡充に期待が膨らむ中、NISA の2015年分で何に投資する?
NISA の2014年分の投資(投信分)を総括!!」…「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/150113.pdf> 」、
2014年1月8日付投信協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…
「 <http://www.toushin.or.jp/mailmag/> 」、マネックス証券のNISA 月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…
「 <https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NisaMonthlySales> 」、カブドットコム証券のNISA 月間口座買付総合ラン
キング…「 http://kabu.com/item/nisa/ranking/fund_generation.html 」、SBI証券のNISA ランキング・投資信託
…「 <https://www.sbisec.co.jp/> 」、楽天証券のNISA ランキング・投資信託…「 [https://www.rakuten-
sec.co.jp/nisa/#nisa_ranking](https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/#nisa_ranking) 」。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。
本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。